

いのちの言の葉2011

富山県教育委員会平成23年度いのちの教育総合支援事業

「人生の道～小児がんの子どもたちに学ぶ～」

射水市立奈古中学校

平成23年10月5日実施

【いのちの先生】

稲葉 茂樹先生

・富山・いのちの教育研究会会長

【授業の概要】

1 いのちの先生の紹介

2 いのちの先生の話

(1) サマーキャンプでの小児がんの子どもたち

- ・毎年、全国の各地から集まった小児がんの子どもたちが、元患者を含めたボランティアや医師、看護師の見守りの中、大自然の中で共に過ごす。
- ・参加資格は自分の病気が小児がんであることを医師から告げられていること。

(2) 藪漕ぎのルール

- ・藪漕ぎとは、藪を漕ぐ（かき分けて進む）こと。危険で苦労が多い。
- ・なぜ、小児がんの子どもたちが藪漕ぎをするのか。
- ・「藪漕ぎ」第1のきまり ～「道は自分が創る」～

①どんな困難に出あっても、自分の意志で自分の人生の道を切り開いていく

(例) トランペットのプロ奏者を目指していた中学2年生のH君

右手首の腫瘍で手首から上10センチで腕を切断

その後、H君はどんな道を創ったか

②自分の人生に対する責任を負う者は自分以外にない



僕は、藪漕ぎの映画を見て、藪漕ぎは、人生そのもののような気がします。協力し合い、自分で道を切り開いて、いろいろな仕事に挑戦し、不自由な事になっていてもがんばって進んでいく素晴らしい行事だと思いました。そして、女子高生が、残りわずかな命を友達や優しい人のために使おうとしたというのが感動しました。僕も、いろいろな人に助けってもらいながら、ここまで成長することができたので、1つずつでも恩を返しながら、これから生きて行きたいなと思いました。小児がんの子供たちは、少しでも生きられるように頑張ってもらいたいなと思いました。